

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

経済的な事情などで、子供たちに体験をする機会が与えられていないひとり親家庭を対象に、吉備の自然を生かした活動や体験活動を行い、ひとり親家庭での体験活動を支える。

2. 事業の概要

（1）期日

第1回 令和4年8月7日（日）日帰り

第2回 令和4年11月19日（土）～20日（日）1泊2日

（2）参加者

① 募集対象・人数

ア. 第1回

岡山県内の幼児（未就学の4～6歳児）、小学校低学年の子供とその家族・10家族30人程度

イ. 第2回

岡山県内の小学校中学年高学年の子供とその家族・10家族30人程度

② 参加人数

ア. 第1回 14家族35名

イ. 第2回 8家族 24名

（3）連携機関

① NPO法人チャリティーサンタ（岡山市）

② 子どもソーシャルワークセンターつばさ（倉敷市）

③ 岡山市役所岡山っ子育成局子育て支援部こども福祉課

（4）企画・運営のポイント

① それぞれの回で対象年齢を設定し、参加する子供の年齢を考慮し、対象年齢に適した活動が展開できるよう工夫した。

② 昨年度のアンケートから、参加者たちのやってみたい活動をそれぞれの回で実施できるようにプログラムを設定した。

③ 熱中症対策として、受付時に飲み物を渡し、活動中も随時塩分タブレットを配布した。

④ 昨年同様、参加費無料、無料バス送迎を行い、保護者の負担軽減に努めた。

⑤ 一般募集はせずに、ひとり親家庭や貧困家庭の支援に取り組んでいる行政やNPO団体と連携し、対象の家庭に直接案内が届くように広報協力を依頼した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

① 第1回 令和4年8月7日(日) 日帰り

8月7日(日)	
9:30	受付
10:00	開会式・アイスブレイク
10:45	泥遊び(保護者交流会)
12:30	昼食(レストラン弁当)
13:30	川遊び
15:15	閉会式
15:30	解散・バス送り

② 第2回 令和4年11月19日(土)～20日(日) 1泊2日

11月19日(土)		11月20日(日)	
10:30	受付	6:45	起床・洗面・掃除
11:00	開会式	8:00	朝食(レストラン)
11:15	アイスブレイク	9:00	きびだんご作り
12:00	昼食(レストラン)	11:00	親子でクラフト!
13:00	おもしろ自転車 フィールドアスレチック マウンテンバイク(選択)	12:00	昼食(レストラン)
15:00	親子で野外炊事!	13:00	親子でクラフト!
19:00	キャンプファイヤー	14:00	閉会式
21:00	入浴		解散・バス送り
22:00	就寝		

(2) 活動の状況

① 第1回 令和4年8月7日(日)



【アイスブレイク】



【泥遊び①】



【泥遊び②】



【川遊び】

② 第2回 令和4年11月19日(土)～20日(日)



【キャンプファイヤー】



【親子で野外炊事！】



【きびだんごづくり】



【親子でクラフト！】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：92% やや満足：8%

(2) 参加者の声

① 第1回参加者

ア. このような事業をもっとたくさんしてほしいです。体験型のイベントはなかなかやれてなかったなので、また参加したいし、もっとたくさんの方が利用できるようなれば嬉しいです。

イ. 楽しい1日をありがとうございました。思い出づくりができてにくい夏休みですが、良い思い出づくりになりました。

② 第2回参加者

ア. 親も子供と同じように参加・体験させてもらえることがよかった。

イ. 車がないので、駅からの送迎がとても助かりました。送迎付きの活動はありがたいです。

(3) 成果

① 昨年度のアンケートでやってみたい活動に書かれていた「保護者交流会」を8月に、「キャンプファイヤー」を11月に活動内容として組み込み、参加者からの好評を得ることができた。

② 家族単位ではあまり体験できない活動を提供することで満足度につながった。

③ 2回目は保護者交流会を実施しなかったが、複数家族同士が組む班行動を多く入れたことで、家庭同士の交流が生まれた。

(4) 今後の課題

① 今年度も2回とも応募数が募集人数を大幅に超えた。需要が供給を大きく上回っているため、多くの希望者にどのような形で体験を提供できるか検討する必要がある。

② 家庭ごとのニーズが多岐にわたるので、活動内容・時間配分のバランスをとりながら、どのように要望に応えるか考えながらプログラム設計をしていく必要がある。

③ 第2回に参加してくれたボランティアは2名だった。多くのボランティアが前週のチャフルデーに参加したため、少なかつたのではないかと考える。宿泊事業であり、ボランティアの力も必要にしていたため、事業の実施間隔について想定しておく必要がある。

担当：企画指導専門職付係員 小城 洋介